



飲料用井戸水検査

のご案内

地表に降った雨の一部が地中にしみ込み様々な成分が溶け込んで地下水となります。

井戸水の水質検査は、その水が飲用に適しているか、し尿や汚水によって水が汚染されていないか確認するために行うものです。

水の汚れは味や色などすぐに分かるものや細菌や化学的成分のように見ただけでは分からないものがあります。

現在、水質の良い井戸であっても、今後汚染されるおそれもありますので定期検査を毎年行い確認することが重要です。

ご希望の場合は下記のお問い合わせまで、直接または電話にてお申し込みください。

1 日 程

容器配布日時

令和8年3月24日（火）
午前9時～午後1時

井戸水回収日時

令和8年3月25日（水）
午前9時～午後1時



2 配布場所及び回収場所

|容器の配布・回収とともに同じ場所です

● 市川三郷町役場 本庁 1階

● 市川三郷町役場 六郷庁舎 庶務係

3 検査内容と検査料金

基本検査

①：飲料水13項目	5,000円
②：飲料水13項目 + ヒ素	8,000円
③：飲料水13項目 + 有機塩素化合物3項目	12,000円
④：飲料水13項目 + 有機塩素化合物3項目+ ヒ素	15,000円

有機フッ素化合物のみ検査

PFAS (PFOS・PFOA)	50,000円
------------------	---------

4 検査の流れ

- 1:検査機関へ直接、または電話で申し込みをします。
- 2:配布場所に行き、検査容器を受け取り、検査費用の支払いをします。
- 3:自宅井戸水を検査容器にくみ、回収場所へ提出します。
- 4:後日、検査機関から検査の結果が送付されます。

5 お問い合わせ先

検査機関

株式会社 環境計量センター 営業課 中村 TEL:055-284-8131 FAX:055-284-8132

市川三郷町役場 生活環境課 環境衛生係

TEL:055-272-6092

※飲料水13項目、有機塩素化合物3項目、ヒ素、PFASの説明は裏面をご参照ください。

一般細菌

特定の菌を指すのではなく、その多くは雑菌です。汚染された水では数が増えます。

大腸菌

人畜などの糞便等で汚染された可能性が高いことを意味します。大部分は非病原性の菌ですが一部には下痢などを起こす大腸菌がいます。

亜硝酸性窒素

肥料や家畜のふん尿や生活排水に含まれるアンモニウムが酸化されたもので、嘔吐、チアノーゼ、虚脱昏睡、血圧低下脈拍増加、頭痛、視力障害等が見られます。

硝酸態窒素・亜硝酸態窒素

多量に含まれている場合は、生活排水や人畜のし尿による汚染があった可能性を示すものです。

塩化物イオン

多量に含まれている場合は、人畜のし尿による汚染があった可能性を示すものです。

鉄

地殻の中に広く分布しているので、地下水の中にも比較的多く含まれていることがあります。あまり多いとお茶やコーヒーがまずくなったり、洗濯物が黄ばんだりします。

カルシウム・マグネシウム等(硬度)

土の中に含まれているものです。水中のカルシウムやマグネシウムの量を表したもので硬度といいます。10~100mg/リットルくらいの硬度の水がおいしいと言われています。

水素イオン

酸性・アルカリ性の度合を表す数字です。地下水は、炭酸が含まれているので弱酸性の場合が多いのですが普段と比べて異常に酸性やアルカリ性にかたむいていたら注意が必要です。

色度

水の色の付き具合のこと、原因の多くは地質によるものです。

濁度

水の濁りの程度を示したもので、原因の多くは砂や粘土によるものです。

臭気

汚水の混入や地質などによって生じます。下水や油・薬品の臭いがしたら要注意です。

味

地質の影響によるほか、汚水の混入などによって変わった味がすることがあります。

有機物

動物や植物が分解された時の炭素化合物の量です。水の汚れ具合をみる目安になります。

トリクロロエチレン(有機塩素化合物)

ドライクリーニング用の洗浄剤や金属洗浄用の溶剤、殺虫剤等に使用されています。基準値を超えた場合はもちろんのこと、汚染されている場合には水道水への切り替えをおすすめします。

テトラクロロエチレン(有機塩素化合物)

ドライクリーニング用の洗浄剤や金属洗浄用の溶剤等に使用されています。基準値を超えた場合はもちろんのこと、汚染されている場合には水道水への切り替えをおすすめします。

1.1.1-トリクロロエタン(有機塩素化合物)

塩化ビニリデンの製造原料でありワックスや油脂類の溶剤に使用されています。基準値を超えた場合はもちろんのこと汚染されている場合には水道水への切り替えをおすすめします。

ヒ素

木材防腐剤農薬などに幅広く用いられています。また、自然界に存在するヒ素が飲料用の地下水を汚染する場合もあります。慢性的に摂取すると中毒を引き起こす有害物質として指定されています。

PFAS(PFOS・PFOA)

主に使用されていた用途としては

PFOS:半導体工業、金属メッキ、フォトマスク(半導体、液晶ディスプレイ)、写真工業、泡消火剤など

PFOA:繊維、医療、電子基板、自動車、食品包装紙、石材、フローリング、皮革、防護服など

になります。発がん性が指摘され、人体に有害とされています。